

## 論文内容要旨

報告番号	甲 先 第 433 号	氏 名	金子 玲大
学位論文題目	非専門家による農地空石積み修復活動の再生産過程とマネジメント		
<p>内容要旨</p> <p>中山間地域の農地の空石積みは傾斜地での生活に不可欠なインフラであり、地縁・血縁による相互扶助活動によって維持してきたが、現在では数多くの空石積みが崩れたまま放置されている。一方で近年、環境負荷の低さや減災に寄与する空石積みの構造と、地域づくりや防災意識の向上といった副次的な効果をもたらす空石積みの修復行為が再評価されており、地域内外の自発的な参加者のコミュニティが石積み修復活動の担い手となっている。彼らのような中山間地域に対する関心の高い都市住民やSNSを通じて石積みに興味を持って集まる参加者は流動的であり、石積み活動を継続するためには、彼らの参加を促進させるとともに、継続的な参加や活動の立ち上げなど活動の中心的な行動に至る行為を後押しすることが必要である。本研究では、活動の継続において最も重要な役割を果たす参加者に着目し、参加動機と参加の継続や活動の立ち上げといった行動変容に影響する参加を通じた経験を明らかにした後、参加を促進させるマネジメント内発的動機を高めるマネジメントを導く。</p> <p>以上の目的より、一般社団法人石積み学校が主催する石積みの修復活動を構成する実践者にアンケート調査を実施し、熱心な参加者、オーガナイザーにインタビュー調査を実施し、質的分析を実施した。</p> <p>分析の結果、参加者の参加動機は技術習得、レクリエーション、活動に対する応援と多様であり、参加者の情報源はSNSと実際に活動に参加していない知り合いからの紹介が多く、情報内容は新規参加者に対しては活動の認知、理解促進、参加経験者には好意態度の形成が有効であることが明らかとなった。また、参加による経験は石積み修復技術の「熟達」、自分でも実践できるという「自信」、他者との関わりを通じて経験を深める「他者との相互作用」、実践を通じて自らの知識を点検し、知識を構築する「実践と省察」、経験に形を与える物象化とそれを共同体の参加を通じて実践に埋め戻す「意味の交渉」の5つに分類できた。この経験を提供するために、「熟達」と「自信」は、石積み修復技術の知識の枠組みを教授することや、行為の結果を評価するなどの客観主義的なアプローチのマネジメントを提示し、「他者との相互作用」、「実践と省察」、「意味の交渉」の経験を提供するためには作業の役割を固定しない、雑談の促進など相互作用や相互構成性を高める構成主義的なアプローチのマネジメントを提示した。</p>			